



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2021年 2月22日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労 第1回団体交渉

# この間の組合員の努力と政策活動の成果を訴える

**厳しい組合員の生活を改善するべく、成果の公正配分を求める！**

貨物鉄産労は2月19日、2021春季生活闘争の第1回団体交渉を行い、同10日に提出した要求書に対する主旨説明を行った。

交渉で貨物鉄産労は、通期で連結・単体ともに経常利益を確保できる見通しが立ったことについて、「新型コロナウイルス感染症拡大は、JR貨物グループにも大きな影響を及ぼしたものの、通期で経常利益を確保できる見通しが立ったことは、日々感染リスクの恐怖と闘いながらも指定公共機関としての責務を果たすべく、安全安定輸送に努めてきた組合員一人ひとりの努力の賜物」と主張。この間、経営支援策の継続・拡充をはじめとした緊急政策課題の解決にむけて、JR連合や国会議員懇談会等と連携して取り組んだ結果、昨年12月に国交省から具体的な支援パッケージが公表され、今通常国会で実施に必要な法改正が審議されることから、「改正法案が可決・成立すれば、貨物鉄産労の要求に応えることは十分に可能」との認識を示した。そして、2019年4月に導入した人事制度の課題を指摘し、「『このままこの会社で働き続けて大丈夫だろうか』という不安の声を多く聞いているが、会社の財産である人材を確保できなければ、いずれ会社は衰退していく。将来に希望が持てる会社づくりは経営者の責務であり、取り巻く環境が厳しいことは十分に承知しているが、組合員の生活も非常に厳しいということを理解していただきたい」と述べ、今後真摯に団体交渉を積み重ねた上で、予定日には誠意ある回答を行うよう要請した。

一方会社は、指定公共機関としての使命を果たすべく、現場では通常と変わらない業務を行っていることや、日々家族と共に感染防止対策に取り組んでいること、頻発する雪害や先日の宮城・福島両県を中心とした地震における輸送手配や復旧作業等への尽力に謝意を示すとともに、「1月改定を行い、年度末に向けて連結・単体で経常黒字を目指しているが、新型コロナウイルス感染症の影響、さらにこの冬期の雪害等によって取り巻く環境は大変厳しい状況となっている。労使で連携して、最後まで目標に向かって頑張りたい。是非、ご協力をお願いします」と述べ、貨物鉄産労に対して協力を求めた。また、人事制度に関しては、「引き続き、社員が『生き生き、伸び伸び』と『成長』『やりがい』を感じられる制度にしていく」との従来の考えを改めて示した。